

世田谷線の設備更新工事を実施

バリアフリー化も含めた車両更新およびホーム改良工事などを実施

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：清水 仁）では、世田谷線の車両・施設などの設備更新を進めるとともに、併せて車両・ホームのバリアフリー化を平成13年夏までに実施します。

今回の世田谷線における設備更新工事は、旧形式車両7編成（14両）を300系車両に更新し、乗降ステップの解消、車内冷房装置の完備を図るとともに、ホーム改良なども実施することで、高齢化社会を迎えるにあたり、十分なサービスが提供できる設備にすることを目的に実施するものです。

1. 車両更新および1編成（2両）増備

①旧形式車両7編成（14両）を300系車両に更新する。

※このほか、2編成（4両）は既に300系車両に更新済み。

②柔軟な車両運用を可能にするため、300系車両1編成（2両）を増備する。

③車内の乗降ステップを解消する。

2. ホーム改良

①車内のステップ解消に合わせ、ホームを嵩上げする。

②各駅各ホームの端部にスロープを設置する。

③雨天時における円滑な乗降を実現するため、各駅の上家を増改築する。

以上の工事が終了しますと、世田谷線のバリアフリー化が図られ、沿線にお住まいの方がたをはじめ、ご利用されるお客さまに、より身近な足として親しまれるものと考えます。

また、世田谷線における将来的な運賃收受方法としてICカード化なども視野に入れた検討を行っていきます。

「世田谷線の設備更新工事」の概要は次のとおりです。

「世田谷線の設備更新工事」の概要

1. 内 容 ・ 車両更新および1編成（2両）増備
 ・ ホーム改良工事
2. 工 期 平成12年4月～平成13年夏
3. 工 事 費 ①車両更新・増備 約22億円
 ②ホ ー ム 改 良 約 8億円

4. 世田谷線の沿革

世田谷線は当社唯一の軌道線（路面電車）です。以前は旧・玉川線（通称：玉電）の一部でしたが、昭和44年5月、同線の渋谷～二子玉川園間が廃止された際、三軒茶屋～下高井戸間が独立して残り、名称も世田谷線となりました。

●世田谷線開通年月日

大正14年1月18日	三軒茶屋～世田谷間開通
大正14年5月 1日	世田谷～下高井戸間開通

以 上